

今こそ、患者・利用者・地域のみなさんの医療と介護、そして暮らしを守るために、
全職員の知恵と力を合わせて奮闘しよう!!

茨城民医連・東日本大震災復旧ニュース

Vol.3
2011.3.26

◇かたくいでは、避難受入れの相談、城南病院では転院相談が相次いでいます。

- ・茨城町の老健が被災、2階が破損し入所継続できないため受け入れ先を自力で探すよういわれた。
- ・自宅が倒壊し、避難所生活をしているが、座位保持困難や流涎あるため医療機関を受診するも、パーキンソンとの診断だけで入院できず、家族が限界。
- ・共立診療所のデイが再開できず、利用者のデイサービスの受入れ依頼。
- ・いわき市の小規模有料ホームで、職員が避難し、また断水継続、燃料不足で継続困難。4名の残った利用者様は全員要介護5、類テンポウソウでステロイドによるコントロールが必要だが、月内分程度しか薬が確保できない。受け入れ先を探している。
- ・福島原発事故の避難地域の南相馬郡から福島市の避難所に。透析治療を受けているので安心して治療の受けられる場所に転居したい。
- ・附属クリニックの外来に、若いお母さんが「避難所で生活しているが子どものオムツが手に入らなくて困っている、少し譲ってほしい」とたずねてきました。

—震災の困難は高齢者に、重くのしかかっています。最大のサポートに全力を注ぎましょう!!—

◇避難所訪問、組合員訪問を実施～保健生協～

水戸の避難所は落ち着き始めていました。自宅で住むのが困難・不安という方が身を寄せていますが、昼間は自宅で、夜が不安なので避難所で過ごす方が多いようでした。また市営住宅への入居の募集も始まっています。医療の面では水戸市の保健センターの職員や医師会の先生方が交替で巡回していました。地域には、ひとり暮らしや独居の不安を抱えた高齢者がいます。今後は、特に高齢者が安心して暮せる住居、環境、街づくりが医療・介護の充実と合わせて必要です。

◇宮城支援の第一陣、3/28～30 5名を派遣します!

木村さん、関さん、山川さん、本郷さん、千葉さんが行きます。

◇小名浜生協病院は水道復旧の見通しが立っていません。

そこで茨城から「水」を持って支援に行くことになりました。

◇透析患者様の無事帰院が終了

26日の小豆沢病院を最後に、42名全員の患者様が帰ってきます。

震災の中とは言え、急な転院で患者様には多大なご負担をお掛けしました。無事全員の方にお戻り頂けて本当に良かったと思います。今、透析科では福島からの避難患者様の受入れを準備しています。

◇4/19の県連学術運動交流集会は延期します。今後の日程は後日お知らせします。

各病院の温かい支援に感謝!!

東葛病院、みさと協立病院、みさと健和病院、川崎協同病院、埼玉協同病院、立川相互病院、王子生協病院、東京健生病院、小豆沢病院、中野共立病院

注意

被災者の保険診療に関する通知

今回の震災にあたり、保険診療に関する重要な通知が出ています。詳しくは配布の通達をご覧ください

◇被災者の一分負担金等について

(住居の全半壊・全半焼(に準ずる被災)、主たる生計維持者が死亡または重篤な傷病を負った場合には一分負担金免除)

◇定数超過入院について、減額措置を行わない

◇看護要員の入院患者比率の時の変動の届け出は当面必要なし

被災地から移動して診療を受ける場合にも適用できます。